

中期経営計画

Medium-Term Management Plan

2025.4～2030.3

◆—————◆
～持続可能な未来へ、

名古屋港の発展を支える～
—————◆

2025年3月

名古屋港埠頭株式会社

◇ 目次 ◇

はじめに	1
当社を取り巻く環境	2
中期経営計画の体系の全体像	4
経営理念と 5 つの経営ビジョン	5
行動指針	6
ESG 経営の実施と SDGs 達成への貢献	7
経営目標と個別の取組	8
おわりに	12

【参考資料】

SDGsの達成への貢献

当社の業務概要

◇ はじめに ◇

当社は、前身である財団法人名古屋フェリー埠頭公社として、1971年(昭和46年)に設立、1993年(平成5年)には、コンテナターミナルの整備、管理運営を担うため財団法人名古屋港埠頭公社に改組し、2012年(平成24年)の株式会社化により名古屋港埠頭株式会社となりました。

一方で、名古屋港におけるコンテナターミナル施設の整備、管理運営を行う株式会社として、1970年(昭和45年)に設立した名古屋コンテナ埠頭株式会社については、2016年(平成28年)に当社が吸収合併を行いました。

また、当社は、2011年(平成23年)の港湾法改正により導入された港湾運営会社制度に対応し、名古屋港のコンテナターミナルを一元的に管理運営する、特例港湾運営会社(2014年(平成26年指定))に指定され、さらに、2017年(平成29年)には、伊勢湾のコンテナターミナル等を一元的・効率的に管理運営する主体として設立された名古屋四日市国際港湾(株)(同年、伊勢湾の港湾運営会社に指定)にコンテナ事業の一部を承継し、当社は利用者への窓口業務など現場対応の機能の強化を図ってまいりました。

このように、当社はそれぞれの公社、株式会社の設立以降、50年間以上にわたり、コンテナターミナル、フェリーターミナル施設の整備、管理、運営という役割を果たしてまいりました。

そして、近年、名古屋港を取り巻く環境が大きく変化する中、お客様の多様なニーズや環境変化に対し、迅速かつ柔軟な対応が可能となるよう、当社は、港湾管理者である名古屋港管理組合、港湾運営会社である名古屋四日市国際港湾(株)と三位一体で、港湾の管理運営の効率化に向けた検討を進めてまいりました。

その結果、当社は引き続きフェリーターミナルの管理運営を行うことに加え、これまで名古屋港管理組合が直接行っていた在来埠頭関連の港湾施設について、名古屋港管理組合から指定管理者として指定(期間5年間)を受けて管理運営を行うこととなりました。一方で、コンテナ業務に関しては、2025年度(令和7年度)から、ターミナル利用者との窓口業務や現場の関連業務について名古屋四日市国際港湾(株)に集約し、当社は施設の所有等により連携してまいります。

このように、当社にとって新たなスタートとなる中、引き続き、お客様にとって利便性と生産性の高い港づくりと地域経済の発展に貢献していくため、2025年4月から2030年3月までの5年間の中期経営計画を策定し、「持続可能な未来へ、名古屋港の発展を支える」をモットーに、社員一丸となって取組を進めてまいります。

◇ 当社を取り巻く環境 ◇

①港灣を取り巻く環境の変化

物流の効率化が進められる中、コンテナ船や自動車専用船を始めとする船舶の大型化が引き続き進んでいます。また、感染症発生リスクや、世界的な地政学的リスクによる影響など、港灣を取り巻く環境は常に変化を続けています。

また、国内においては、いわゆる物流の 2024 年問題や労働人口減少などにより、モーダルシフトを始めとする輸送形態の変化も起こりつつあります。

②当社の経営環境の変化

名古屋港が今後も世界で選ばれ続ける港を目指して持続的に発展していくため、2025 年度から、コンテナターミナル施設の利用者調整や現場の関連業務等については名古屋四日市国際港灣(株)に集約し、当社はコンテナターミナル施設の所有等により連携するとともに、引き続きフェリーターミナル施設の管理運営を行いながら、新たに名古屋港の在来埠頭関連の港灣施設を管理運営する指定管理者として業務を進めてまいります。

③ESG 経営の実施と SDGs の達成

社会の変化に対応しながら、持続的に会社としての責任を果たし続けていくためには、お客様に信頼される会社として、ESG（環境「Environment」、社会「Social」、ガバナンス「Governance」）を念頭に配慮した経営を行い、組織一丸となって目標達成に向け取り組んでいくことが不可欠となっています。

④インフラの老朽化に対する対応

当社が所有等をする施設は、供用開始から長期間経過したものが多くなっているため、引き続きお客様に安全に安心して施設をご利用いただくよう、ライフサイクルマネジメントを考慮した計画的な施設改修や維持修繕が行われていく必要があります。

⑤大規模災害時等のリスクへの備え

近年、災害が激甚化、頻発化する中、大規模災害発生に対してインフラ施設提供を継続し、早期の機能回復を図るため、日ごろからの備えがこれまで以上に重要となっています。

また、感染症発生時の対応や特定外来生物の水際対策なども不可欠となっています。

⑥環境に配慮した経営

名古屋港では、2050年のカーボンニュートラルを目標とした名古屋港港湾脱炭素化推進計画が名古屋港管理組合において策定され、地域の脱炭素社会の実現に貢献していくため、当社を含む関係者により様々な取組が進められています。

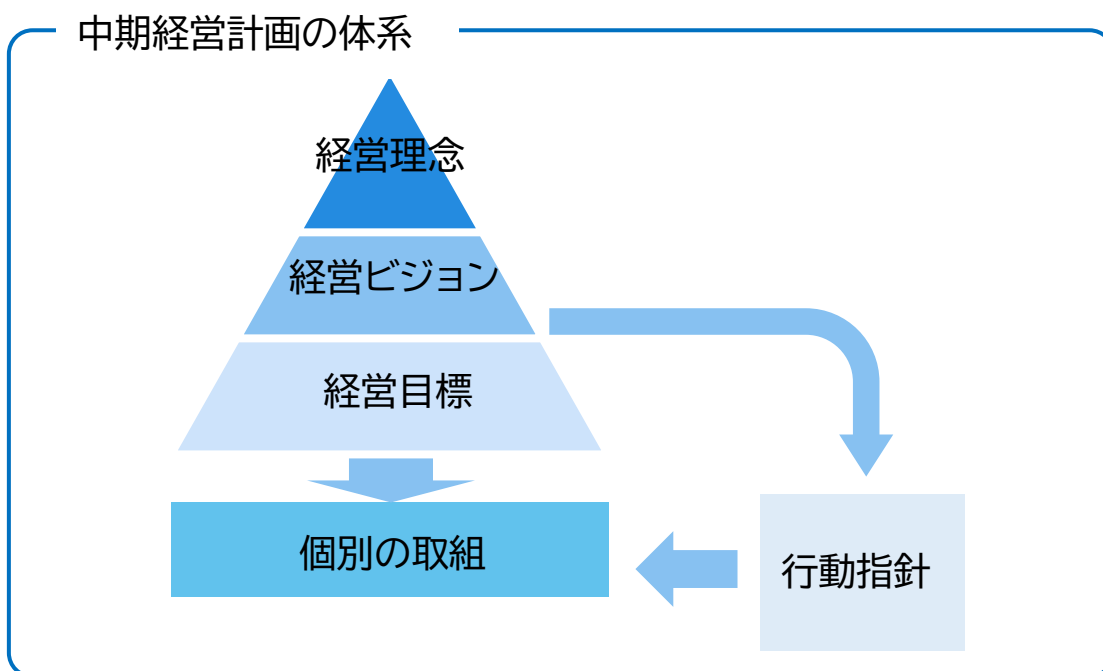
⑦組織力の強化に向けた取組

当社は、2025年度から新たな役割のスタートに伴い、業務内容が変化し社員数も増加することとなります。

その一方で、国内では労働力人口の減少が進む中、労働環境の改善、ワークライフバランスの向上などが不可欠となっています。

◇ 中期経営計画の体系の全体像 ◇

当社の中期経営計画は、経営理念のもと、目指す将来像として経営ビジョンを掲げ、それを実現するための経営目標及び具体的な個別の取組、そしてそれらを進めるための行動指針を体系的にとりまとめています。



◇ 経営理念と5つの経営ビジョン ◇

経営理念

名古屋港埠頭株式会社は、中部圏の経済・産業活動や人々の暮らしを支える信頼の高い港湾インフラの形成により、経済発展や豊かな社会の実現に貢献します。

経営ビジョン

1 お客様が満足するロジスティクスの提供

常にお客様を尊重することを原点とし、お客様が満足するロジスティクスの提供を通じ、地域経済の発展と市民生活の向上に貢献する「信頼される会社」を目指します。

2 コンプライアンス意識の 徹底

コンプライアンス意識を徹底し、公正で透明性の高い「公明正大な会社」を目指します。

3 サービスの向上、 防災・安全対策の強化

サービスの質と生産性の向上とともに、防災・安全への取り組みに努め、お客様に「安心して選んでいただける会社」を目指します。

4 脱炭素化、環境重視の 経営の実現

港湾における脱炭素化への対応とともに、沿岸・海洋環境の保全と利益の創出を両立させることのできる「環境重視の経営を実現する会社」を目指します。

5 全社員の生きがいと 夢の実現

中部発、日本経済の活力を生み出すリーディングポートとして、「全社員の生きがいと夢を実現する会社」を目指します。

行動指針

「経営理念」のもと、「経営ビジョン」を実現していくために、社員一人ひとりが持つべき心構えや取るべき行動として、以下の8項目を定めています。

- 1 法令等の遵守
- 2 誠実かつ公正・透明な事業活動の徹底
- 3 反社会的勢力の排除
- 4 情報の適正な管理・保護
- 5 安全確保・品質向上、お客様サービスの推進
- 6 環境への取組
- 7 チャレンジ精神
- 8 人権の尊重、活力ある職場づくり

◇ ESG 経営の実施と SDGs 達成への貢献 ◇

当社は、2025 年度から業務内容が変化し、社員数も増加することとなります。

引き続き、当社が社会的責任を果たすとともに、会社としての価値を高め、お客様に信頼される会社であり続けるため、ESG(環境、社会、ガバナンス)に配慮した経営を行い、当社の事業活動を通じて、持続可能な開発目標「SDGs」の達成にも貢献してまいります。



◇ 経営目標と個別の取組 ◇



経営ビジョン『お客様が満足するロジスティクスの提供』

常にお客様を尊重することを原点とし、お客様が満足するロジスティクスの提供を通じ、地域経済の発展と市民生活の向上に貢献する「信頼される会社」を目指します。

経営目標『地域に寄り添い、お客様のニーズにきめ細やかに対応する』

個別の取組

- ・お客様との意見交換や港湾関係者が参加する会議に出席し、お客様の要望を聞きながら、サービスの向上を図る
- ・フェリー輸送の利用促進に向け広く情報発信を図る
- ・アンケートの実施等により、お客様満足度を把握する
- ・名古屋四日市国際港湾(株)や名古屋港管理組合が進めるコンテナターミナルの機能、生産性向上に係る取組に、コンテナターミナル施設の所有者等として協力する

経営目標『お客様のニーズに対応するため、組織基盤を強化する』

個別の取組

- ・質の高いサービスを提供するため専門性を有するスペシャリストを育成する

経営目標『ロジスティクスの基礎となる港湾施設を適切に管理、提供する』

個別の取組

- ・施設の損傷・故障・トラブルからの早期復旧を図る
- ・フェリーターミナル施設の健全性確保と長寿命化を図る



経営ビジョン『コンプライアンス意識の徹底』

コンプライアンス意識を徹底し、公正で透明性の高い「公明正大な会社」を目指します。

経営目標『会社全体のガバナンスを徹底するとともに、社員一人ひとりの コンプライアンス意識を高める』

個別の取組

- ・経営目標、行動指針、コンプライアンスに関する事項等を、電子媒体を活用して全社員に周知徹底する
- ・企業倫理、社会規範等に基づく社内規程等を適宜更新する
- ・内部監査、外部監査及び会計監査を実施する



経営ビジョン『サービスの向上、防災・安全対策の強化』

サービスの質と生産性の向上とともに、防災・安全への取り組みに努め、お客様に「安心して選んでいただける会社」を目指します。

経営目標『平常時の事故ゼロを目指すとともに、非常時の対応力を強化する』

個別の取組

- ・港湾施設における重大事故(人身事故)ゼロを目指し、巡視、日常点検等を強化する
- ・被災した施設の早期復旧のため、関係機関と連携した各種BCP等を更新・強化する
- ・台風、地震、津波等の自然災害対応やテロ対応等の各種訓練を実施する
- ・リスク管理委員会においてPDCAサイクルによるリスク管理を行う
- ・港湾関係者に対して港湾施設の利用における安全意識の向上を図る



経営ビジョン『脱炭素化、環境重視の経営の実現』

港湾における脱炭素化への対応とともに、沿岸・海洋環境の保全と利益の創出を両立させることのできる「環境重視の経営を実現する会社」を目指します。

経営目標 『港湾における脱炭素への対応とともに、環境性能及び経済性を充足した省エネ設備を積極的に導入する』

個別の取組

- ・所有する照明設備のLED化など省エネ設備の積極的な導入を図る
- ・事業活動において、環境負荷低減につながる取組を進める

経営目標 『良好な港湾環境の維持を図るとともに、陸域生態系の保護及び生物多様性の損失を阻止する』

個別の取組

- ・港湾エリアにおける清掃活動などに積極的に参加する
- ・管理施設における特定外来生物の定着阻止を図る



経営ビジョン『全社員の生きがいと夢の実現』

中部発、日本経済の活力を生み出すリーディングポートとして、「全社員の生きがいと夢を実現する会社」を目指します。

経営目標『活力ある職場環境を実現する』

個別の取組

- ・新たな技術に関する情報を収集する
- ・事業活動において、継続的な業務改善により効率的な業務の執行を図る

経営目標『社員のワークライフバランスを実現する』

個別の取組

- ・有給休暇、育児休暇等の取得の推進を図る
- ・ワークライフバランスに関する制度の周知を図る
- ・風通しのいい職場環境を目指す

◇ おわりに ◇

この中期経営計画では、当社を取り巻く環境の変化を踏まえ、経営理念、経営ビジョンのもと、2029年度までを想定した、経営目標と個別の取組について体系的に取りまとめています。

近年の世界的な社会経済情勢や国内の人口減少、産業の動向などの変化を見ると、長期的な港湾を取り巻く環境の変化は、想定を超えて進むことも考えられます。

また、インフラ施設の老朽化は今後も進むほか、台風などの災害の激甚化、頻発化も危惧されており、これまでより一層レベルの高い備えをしていくことが求められます。














名古屋港は背後に擁する中部のものづくり産業を支える役割を長年にわたり果たしてきていますが、これからもこうした変化に、迅速かつ適切に対応していくことが重要であり、名古屋港管理組合、名古屋四日市国際港湾(株)とともに、更なる港湾の管理運営の効率化を進めていく必要があります。

これらのことを踏まえ、今回策定した中期経営計画については、時代の変化や取り巻く環境の変化に、適時適切に対応していくことができるよう必要な見直しを行いながら取組を進めてまいります。

SDGsの達成への貢献

SDGsは、持続可能な世界を実現するための国際目標であり、2030年までに「経済」「社会」「環境」を統合的に向上させることを目指して、17のゴール(目標)が設定されています。

当社の5つの経営ビジョンの実現と、関係するSDGsの項目の関係は以下のとおりです。

	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤を作ろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に
													
『お客様が満足するロジスティクスの提供』 常にお客様を尊重することを原点とし、お客様が満足するロジスティクスの提供を通じ、地域経済の発展と市民生活の向上に貢献する「信頼される会社」を目指します						○							
『コンプライアンス意識の徹底』 コンプライアンス意識を徹底し、公正で透明性の高い「公明正大な会社」を目指します。			○						○				○
『サービスの向上、防災・安全対策の強化』 サービスの質と生産性の向上とともに、防災・安全への取り組みに努め、お客様に「安心して選んでいただける会社」を目指します。	○							○		○			
『脱炭素化、環境重視の経営の実現』 港湾における脱炭素化への対応とともに、沿岸・海洋環境の保全と利益の創出を両立させることのできる「環境重視の経営を実現する会社」を目指します。				○		○				○	○	○	
『全社員の生きがいと夢の実現』 中部発、日本経済の活力を生み出すリーディングポートとして、「全社員の生きがいと夢を実現する会社」を目指します。	○	○	○		○		○						○

当社の業務概要

○フェリーターミナル施設の管理運営

【対象施設】

空見ふ頭フェリーターミナル施設

○在来埠頭関連の港湾施設の管理運営(指定管理・業務委託)

【対象施設】

係留施設(係船岸壁、物揚場及び浮棧橋)

上屋及び荷さばき地

野積場及び貯木場

道路

上屋附属詰所、荷さばき地附属詰所その他の附属設備

○コンテナターミナル施設の所有等

【対象施設】

コンテナターミナル施設

(鍋田ふ頭、飛島ふ頭南側、NCB、飛島ふ頭北及び南の各コンテナターミナル施設)

当社の組織

本社(総務課・財務課・経営課・埠頭管理課)／名古屋市港区空見町 40 番地

港湾管理事務所(港湾管理課・土木課)／名古屋市港区金城ふ頭三丁目 1

金城事務所(土木課・施設課)／名古屋市港区金城ふ頭二丁目 7 番 1

稲永ふ頭受電所(施設課)／名古屋市港区潮凧町 1 番地 3